
明倫短期大学学会報告

第36回 (通算第119回) : 2008年10月23日 (木)

(座長: 植木一範)

ノンクラスプ義歯の製作法と臨床

産学連携交流会

野村章子 (歯科技工士学科)

根岸政明 (東伸洋行株式会社)

竹部 茂 (沖歯科工業株式会社)

ノンクラスプ義歯は金属をクラスプとして使用せず、床材料の一部分を義歯の維持部に利用する審美性に優れた新しい設計の義歯として、一般臨床医から大いに注目されている。その中で、東伸洋行株式会社はH16年にノンクラスプ義歯に適した強度と柔軟性を持ち、生体安全性の高いレイニング樹脂®を開発し、販売を開始した。これに引き続いて平成20年8月からは患者にとって満足度の高いノンクラスプ義歯の普及を目指す産学連携事業を開始した。東伸洋行株式会社は歯科材料の改善・開発を手がけ、沖歯科工業株式会社が歯科技工術式を確立し、明倫短期大学は臨床応用を行った。本研究事業経費の一部は新潟市の産学連携トライアル補助金によるものであった。明倫短期大学附属歯科診療

所で応用した13症例は、前歯部中間欠損2例、臼歯部中間欠損3例、片側遊離端欠損7例、複合型欠損1例であり、現在予後調査を実施している。今回は、事業の中間報告および一連の技工操作と義歯装着時の調整方法、義歯の着脱操作の一部を報告した。

歯科技工技術の変遷 —無縫冠キャップ調整器—

藤口 武 (歯科技工士学科)

数多くの歯科用材料が開発され、歯科医療用修復物の製作工程が劇的に変化し、より寸法精度の高い修復物を製作できるようになっている。しかし、現在に至るまでには多くの先人が考案した歯科技工技術の変遷の歴史がある。それらの中で現在はほとんど見られなくなった無縫冠作成時に使用するキャップの調整器を入手したので、調整方法の再現を試みた。古い部品のため錆付いていたがこれを取り除き、試行錯誤の結果キャップの作製に成功した。調整法を記録することで無縫冠についての技術の一端を後世に伝承することが出来ると考える。